

新変額  
個人年金保険  
無配当

リズナブル

REASONAB-LE

新変額個人年金保険(無配当)<特別勘定グループ(TG型)>

# 月次運用実績レポート

## 2015年9月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株インデックス型 (TG)	インデックスファンド 225	日興アセットマネジメント株式会社
日本株アクティブ型 (TG)	フィデリティ・日本成長株・ファンド VA3(適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社
世界株式型 (TG)	アムンディ・世界好配当株式 VA (適格機関投資家専用)	アムンディ・ジャパン株式会社
新興成長国株式型 (TG)	GIM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)	JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社
中国株式型 (TG)	HSBC チャイナファンドVA II号 (適格機関投資家専用)	HSBC投信株式会社
世界債券型 (TG)	グローバル・ソブリン・オープンVA (適格機関投資家専用)	三菱UFJ国際投信株式会社
海外リート型 (TG)	ノムラ海外 REIT インデックス・ ファンドVA(適格機関投資家専用)	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型 (TG)	フィデリティ・マネープール VA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

<引受保険会社>

<募集代理店>

株式会社 但馬銀行



0120-164-230

たんぎん相談ダイヤル  
受付時間/9:00~19:00  
(土・日・祝日のほか、1月1日~3日、12月31日は除く)



〒108-8020 東京都港区白金1-17-3  
TEL 0120-933-399  
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

特別勘定名称

# 日本株インデックス型(TG)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株インデックス型(TG)	▲7.01%	▲12.90%	▲8.82%	7.26%	91.61%	52.24%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.6%
投資信託	95.4%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(04/09)を「100」として指数化したものです。

## 【参考】日本株インデックス型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### インデックスファンド225 (運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

#### <基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	3年
インデックスファンド225	▲7.40%	▲13.58%	▲8.90%	8.76%	102.90%
日経225	▲7.95%	▲14.07%	▲9.47%	7.51%	96.03%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

#### <国内株式組入上位5業種>

順位	業種	比率
1	電気機器	16.2%
2	小売業	14.0%
3	情報・通信業	10.6%
4	化学	8.0%
5	医薬品	7.5%

#### <資産構成比率>

株式	99.5%
うち先物	2.0%
現金その他	2.5%

※「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」の比率は純資産総額を、「株式組入上位5業種」の比率は組入株式の評価額の合計を、それぞれ100%として計算したものです。

※「資産構成比率」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

#### <国内株式組入上位10銘柄>(銘柄数 223銘柄)

順位	銘柄	業種	比率
1	ファーストリテイリング	小売業	10.84%
2	ファナック	電気機器	4.09%
3	ソフトバンクグループ	情報・通信業	3.67%
4	KDDI	情報・通信業	3.58%
5	京セラ	電気機器	2.44%
6	アステラス製薬	医薬品	1.73%
7	セコム	サービス業	1.60%
8	日東電工	化学	1.59%
9	本田技研工業	輸送用機器	1.58%
10	エーザイ	医薬品	1.57%

※「株式組入上位5業種」「株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。業種は東証33業種分類によるものです。

#### <運用コメント>

9月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比マイナス7.95%と下落しました。

中国経済の先行き懸念の強まりや、米国における政策金利の引き上げに対する警戒感、原油価格の下落基調などが重しとなり、国内株式市場は下落して始まりました。その後、中国における政府の株価支援策や景気対策への期待が強まったことや、日銀による追加金融緩和の観測が広がったことなどから、株価が上昇する局面があったものの、米国における利上げ先送りの決定を背景とする円高/アメリカドル安傾向や、ドイツ自動車メーカーの不正発覚による関連銘柄の下落、中国の景気減速による世界経済の成長鈍化懸念などが株価の重しとなり、国内株式市場は下落基調となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 日本株アクティブ型(TG)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
日本株アクティブ型(TG)	▲6.99%	▲12.72%	▲8.35%	4.35%	82.70%	30.76%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.6%
投資信託	95.4%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をもとに「100」として指数化したものです。

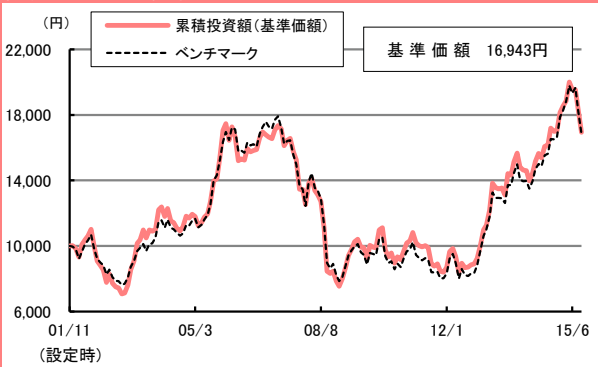
## 【参考】日本株アクティブ型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行いません。

#### 設定来の運用実績 (2015年9月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。  
※基準価額は運用管理費用控除後のものです。

#### <運用コメント>

当月の東京株式市場は、世界景気に対する先行き懸念を払拭できず、前月に続いて大幅な下落となりました。前月末に一旦は反発を見せた日本株でしたが、中国における低調なマクロ経済指標の発表を受けて月初より再び急落し、着着きどころを模索する展開となりました。悪材料には敏感な反応を示して一時8月安値を割り込む一方で、中国政府による政策発動の思惑が高まると、日経平均株価が1日で8%弱も上昇するなど、相場は荒い値動きを続けました。月半ばに、米連邦公開市場委員会(FOMC)にて世界経済を巡る懸念などを理由に金利引上げが見送られたことは、株式市場の先行き不透明感を強める結果となりました。下旬には、中国のマクロ経済指標発表で相変わらずの景気減速傾向が明らかになる中、独自動車会社の排ガス検査不正問題やスイス資源会社の経営不安などが、世界の株式市場下落に追い討ちを掛けました。日本株は月末近くに、1月の年初来安値に迫る水準まで一段安を強いられる場面がありました。月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が▲7.51%、日経平均株価は▲7.95%でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

商品概要	
形態	追加型投信/国内/株式
投資対象	わが国の株式等
設定日	2001年11月29日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2015年9月30日現在)						
	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	▲7.33%	▲13.35%	▲8.54%	5.37%	91.40%	69.43%
ベンチマーク	▲7.51%	▲12.78%	▲7.69%	8.42%	102.78%	68.52%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。  
※ベンチマーク:TOPIX(配当金込)

過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込)	
第9期(2010.11.30)	0円
第10期(2011.11.30)	0円
第11期(2012.11.30)	0円
第12期(2013.12.02)	0円
第13期(2014.12.01)	0円

純資産総額	711.6億円	(2015年9月30日現在)
-------	---------	----------------

#### 組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2015年8月31日現在)

	銘柄	業種	比率
1	ミスミグループ本社	卸売業	3.4%
2	ソフトバンクグループ	情報・通信業	3.3%
3	マキタ	機械	2.8%
4	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.7%
5	リンナイ	金属製品	2.5%
6	横河電機	電気機器	2.3%
7	オリックス	その他金融業	2.3%
8	東レ	繊維製品	2.2%
9	日本電産	電気機器	2.1%
10	三浦工業	機械	1.8%

(組入銘柄数: 286) 上位10銘柄合計 25.4% (対純資産総額比率)

#### ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

##### <資産別組入状況>

株式	98.6%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	0.3%
現金・その他	1.1%

##### <市場別組入状況>

東証1部	95.1%
東証2部	1.3%
ジャスダック	1.5%
その他市場	1.0%

##### <組入上位5業種>

電気機器	17.5%
機械	10.9%
輸送用機器	7.2%
化学	6.1%
銀行業	6.1%

(対純資産総額比率)

\* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

\* ファンドは短期資金の運用の一環として、委託会社が設定した「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」に投資する場合があります。これはあくまでも短期資金の運用であるため、組入上位10銘柄、市場別組入状況には含めず、資産としては「現金・その他」に分類いたしております。なお、未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 世界株式型(TG)

運用方針

日本を含む世界各国の高い配当利回りが期待できる企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2006年9月1日)を「100」として指数化したものです。  
 ※世界株式型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
世界株式型(TG)	▲4.38%	▲8.72%	▲8.03%	0.46%	71.41%	32.13%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.8%
投資信託	95.2%
合計	100.0%

【参考】世界株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## アムンディ・世界好配当株式VA(適格機関投資家専用)

(運用会社:アムンディ・ジャパン株式会社)

### <基準価額の騰落率>(課税前分配金再投資換算基準価額)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
アムンディ・世界好配当株式VA	▲4.57%	▲8.86%	▲7.91%	1.26%	80.61%	51.10%
MSCI ワールド・インデックス(円換算ベース)	▲7.27%	▲12.20%	▲10.99%	1.73%	92.67%	40.94%
差異	2.69%	3.33%	3.09%	▲0.47%	▲12.06%	10.16%

※騰落率は、年率換算していません。騰落率は月次の収益率より算出しています。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。

※「課税前分配金再投資換算基準価額」は、この投資信託の公表している基準価額に、各収益分配金をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、委託会社が公表している基準価額とは異なることがあります。

※MSCIワールド・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数です。同指数に関する著作権、その他の知的財産権はMSCI Inc.に帰属しております。MSCIワールド・インデックス(円換算ベース)は同社が発表した前日の指数値(米ドルベース、税引後配当込み)を委託者が三菱東京UFJ銀行が発表した当日の対顧客電信売買相場仲値を用いて円換算したものです。

### <純資産構成比率>

株式合計	95.0%
現金+現金+その他	5.0%
合計	100.0%

※比率はマザーファンドの内容です。

### <組入地域配分比率>

地域	ウェイト
北米	24.9%
ユーロ圏	23.4%
その他欧州	24.0%
アジア・オセアニア	22.7%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

### <株式組入上位10銘柄>

(組入銘柄数: 91)

銘柄	ウェイト	予想配当利回り	業種	国
1 アルトリア・グループ	3.0%	4.0%	生活必需品	米国
2 オーストラリア&ニュージーランド銀行	2.3%	6.7%	金融	オーストラリア
3 ウェストバンク銀行	2.3%	6.3%	金融	オーストラリア
4 CLPホールディングス	2.2%	4.1%	公益	香港
5 ムンヘン再保険	2.1%	4.8%	金融	ドイツ
6 グラクソ・スミスクライン	2.1%	6.3%	ヘルスケア	英国
7 フィリップ モリス インターナショナル	2.0%	5.1%	生活必需品	米国
8 カナダ帝国商業銀行	2.0%	4.5%	金融	カナダ
9 サノフィ	1.9%	3.6%	ヘルスケア	フランス
10 アクサ	1.9%	5.0%	金融	フランス

※ウェイトは、マザーファンドの純資産総額に対する割合を表示しています。また、業種分類は、委託会社が独自に定めた分類方法で表示しております。

※予想配当利回りは、ブルームバーグのデータを基に委託会社が各銘柄の当会計年度の予想DPSを基準日の株価で割って算出しております。

### <組入業種配分比率>

業種	ウェイト
公益	25.6%
生活必需品	18.7%
ヘルスケア	14.9%
金融	19.6%
電気通信サービス	9.3%
その他	6.9%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

### <株式組入上位5業種>

業種	ウェイト
1 公益事業	25.6%
2 食品・飲料・タバコ	15.2%
3 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	13.3%
4 銀行	12.2%
5 電気通信サービス	9.3%

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

## <運用コメント>

### <投資環境と運用状況>

米国では小売りなどは堅調ながら、製造関連の景気指標は弱いものとなりました。中国など海外要因の影響を受けていると見られ、FRB(米連邦準備理事会)は9月の利上げを見送りました。実際、中国の8月のPMI(購買担当者指数)は3年ぶりの低水準で、日本の輸出や個人消費も弱いものでした。ユーロ圏では緩やかな成長が継続しましたが、商品価格が全般に低位で推移しているため、インフレ率は低下、主要国の債券利回りも低下しました。為替市場では特に資源国、新興国の通貨下落が中旬以降目立った一方、リスク回避で円高傾向となりました。世界株式は、米中の景気減速懸念で月初に4%近く下落したのち、FRBの利上げ先送りや中国の政策対応への期待などから中旬にはほぼ前月末水準を回復しましたが、月末にかけて素材、自動車、バイオ関連などの悪材料で投資家心理が悪化し、月間では現地通貨ベースで6%あまりの下落でした。地域別では日本を中心にアジア・オセアニアが9%を越す下落、ユーロ圏は7%あまり、北米とその他欧州は5%台の下落でした。業種別では月後半に格差が拡大し、素材は月間11%近く下落、ヘルスケアは9%あまり、電気通信サービスとエネルギーは8%前後の下落となった一方、生活必需品は2%弱、公益は3%弱の下落でした。金融と資本財は6%あまり、情報技術と一般消費財は5%前後の下落でした。

### <今後の運用方針>

世界株式はここ数ヵ月、現実的な見通しを織り込んで来ました。足元の不透明感が強い中で米国の利上げ開始が近づいていますが、これで低金利が終焉するわけではありません。日欧、中国などの中央銀行は緩和的な政策を続け、米国でも最初の利上げの後の追加利上げには慎重な姿勢が予想されます。先進国の成長率は2015年、2016年とも2%前後、新興国を含む世界経済全体としては3%前後と、緩やかながら成長継続が見込まれます。世界株式の2016年の利益成長は10%弱と予想され、最近の調整を経て予想PER(株価収益率)が15倍前後、予想配当利回りが2.8%と株価バリュエーションも妥当な水準と思われる。株価は下値を切り上げる展開となりそうです。

当ファンドは、予想配当利回りが高く、また、循環的要因によらない質の高い利益成長を持続できる銘柄を中心としたポートフォリオ運用によって、安定的な収益源を確保します。業種配分においては、高水準かつ比較的安定した配当支払いが見込める公益、ヘルスケア、生活必需品、金融といった業種中心のポートフォリオを維持し、地域別には4地域への均等配分で為替変動リスクを分散します。組入銘柄は長期的な見通しに基づいて選別しますが、株価上昇によって配当利回りが低下した銘柄については、組入比率の引き下げや、より割安な銘柄への入れ替えを行っていきます。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。



特別勘定名称

# 新興成長国株式型(TG)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2006年9月1日)を「100」として指数化したものです。  
 ※新興成長国株式型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
新興成長国株式型(TG)	▲8.78%	▲21.17%	▲18.83%	▲14.07%	18.62%	32.56%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.2%
投資信託	95.8%
合計	100.0%

【参考】新興成長国株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## GIM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付)

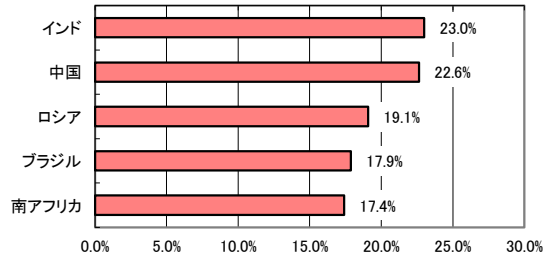
(運用会社:JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
GIM・BRICS5・ファンド	▲9.1%	▲22.0%	▲19.3%	▲13.7%	23.2%	70.3%

※騰落率については、基準価額に税引前分配金を再投資して計算しております。  
 ※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。  
 ※ファンド設定日は2006年5月26日です。

### <国別構成比率>



※マザーファンド・ベース  
 ※比率は組入価証券を100%として計算しております。  
 ※国別については、MSCI分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。  
 ※中国の構成比率にはMSCI分類における香港を含みます。

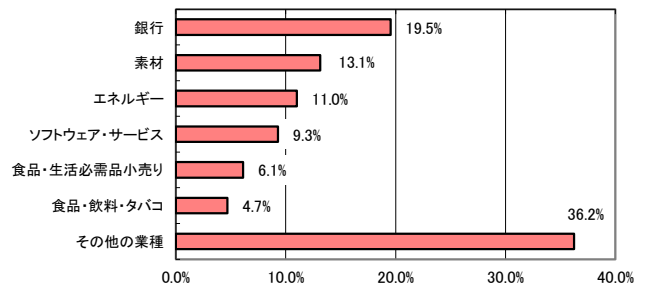
### <株式組入上位10銘柄>

(銘柄数 68銘柄)

順位	銘柄	国	業種	比率
1	ルクオイル(ADR)	ロシア	エネルギー	4.88%
2	MMCノリリスクニッケル(ADR)	ロシア	素材	3.34%
3	HDFC	インド	銀行	3.30%
4	マグニト	ロシア	食品・生活必需品小売り	3.21%
5	タタ・コンサルタンシー・サービス	インド	ソフトウェア・サービス	2.74%
6	ズベルバンク	ロシア	銀行	2.69%
7	リアリانس・インダストリーズ	インド	エネルギー	2.52%
8	ビッドヴェストグループ	南アフリカ	資本財	2.50%
9	ナスパーズ	南アフリカ	メディア	2.40%
10	MTNグループ	南アフリカ	電気通信サービス	2.39%

※マザーファンド・ベース  
 ※組入上位10銘柄については、開示基準日(2015年8月31日)現在の情報と異なります。  
 ※比率は対純資産で計算しています。  
 ※国、業種については、MSCI分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

### <業種別構成比率>



※マザーファンド・ベース  
 ※比率は組入価証券を100%として計算しております。  
 ※業種については、MSCI24分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

### <運用コメント>

**市場概況**  
 当月、BRICS5カ国を含む新興国株式市場は下落しました。月初は世界景気の先行きと米国の利上げの行方に対する不透明感から軟調な展開となりました。その後は、9月16-17日開催のFOMC(米連邦公開市場委員会)を控え、悪材料出尽くしへの期待感から相場は上昇に転じる局面もありましたが、FOMCで利上げの先送りが決定されると、悪材料先送りへの失望感や、米国が利上げを躊躇するほど世界の实体经济が悪化しているとの見方が浮上したことから、市場は月末にかけて再び下落しました。このような市場環境の下、BRICS5カ国の国別では、全ての国が下落しました。

**運用状況**  
 ・当ファンドの月末基準価額は12,877円、前月末比-9.1%となりました。  
 ・当月は、投資通貨が対円で下落したことや保有銘柄の株価下落が基準価額を押し下げました。  
 ・組入価証券に対する国別の投資比率は、インド、中国は20%を上回る比率となりました。一方で南アフリカ、ブラジル、ロシアは20%を下回る比率となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 中国株式型(TG)

運用方針

中国の証券取引所に上場されている企業の株式や中国経済の発展と成長に係わる企業の株式等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
中国株式型(TG)	▲3.95%	▲21.27%	▲15.17%	5.22%	70.06%	120.86%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.7%
投資信託	95.3%
合計	100.0%

【参考】中国株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## HSBCチャイナファンドVA II号(適格機関投資家専用)

(運用会社:HSBC投信株式会社)

HSBCチャイナファンドVA II 基準価額の推移(設定来)  
2004年10月4日～2015年9月30日



※基準価額は信託報酬控除後のものです。

H株とレッドチップの推移(2004年10月4日を100として指数化)  
2004年10月4日～2015年9月末日



上海B株と深センB株の推移(2004年9月30日を100として指数化)  
2004年9月30日～2015年9月末日



※設定日の2004年10月4日は中国本土市場では国慶節の休場日であったことから前営業日の2004年9月30日を100として指数化しています。

為替の推移(香港ドル/円)  
2004年10月4日～2015年9月30日

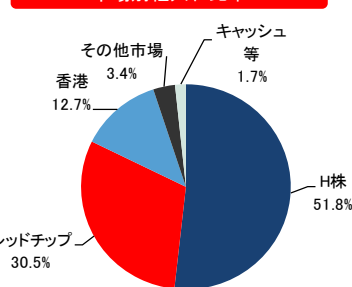


出所:為替レートは投資信託協会、株価指数はブルームバーグ

### 業種別組入れ比率

業種名称	比率
銀行	21.4%
保険	14.1%
電気通信サービス	14.0%
ソフトウェア・サービス	12.2%
資本財	8.8%
公益事業	6.7%
不動産	5.4%
エネルギー	4.0%
自動車・自動車部品	2.8%
ヘルスケア機器・サービス	2.8%
運輸	2.3%
医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1.8%
その他	2.1%
キャッシュ等	1.7%
合計	100%

### 市場別組入れ比率



※親信託財産の構成(対純資産総額)

### <運用コメント>

#### 【市場動向】

9月の中国株式は下落し、香港市場ではH株指数が前月末比-5.3%、レッドチップ指数が-6.5%となりました。中国経済の減速懸念が主な下落要因でした。※景気指標では、8月の鉱工業生産指数が前年同月比+6.1%と7月の+6.0%から僅かに上昇、8月の小売売上高も前年同月比+10.8%と7月の+10.5%から上昇しました。他方、8月の財新製造業購買担当者指数(PMI)は47.3となり、6ヶ月連続で好不況の分岐点となる50を下回りました。また、8月の工業部門企業利益は前年同月比-8.8%と7月の-2.9%からマイナス幅が拡大しました。

※指数の月間騰落率は、原則として、基準日の前営業日の数値(終値ベース)をもとに算出。

#### 【運用状況】

9月末の基準価額の騰落率は前月末比-4.1%と下落しましたが、参考指標の-5.5%は上回りました。

#### 【今後の見通し】

中国経済は「投資主導型成長」から「消費・内需主導型成長」への転換期にあります。今後3~5年間、中国の経済成長率はやや低下するものの、6~7%程度の成長は維持できるものと当社では見えています。また、当面は足元の景気減速を抑えるべく、政府は引き続き景気対策を打ち出し、中国人民銀行は利下げを含む金融緩和を続けることが見込まれます。これは株式市場を支える要因となります。

#### 【投資戦略】

中国株式への投資にあたり、当社では中国経済の構造変化の恩恵を受ける企業、収益性の改善が予想される政府系企業、構造改革により成長性が再評価される可能性がある業種の銘柄を選好しています。

※将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 世界債券型(TG)

運用方針

日本を含む世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、シティ世界国債インデックス(含む日本/円ベース)を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
世界債券型(TG)	▲0.43%	▲1.42%	▲2.62%	4.54%	36.42%	28.59%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.4%
投資信託	95.6%
合計	100.0%

【参考】世界債券型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## グローバル・ソブリン・オープンVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:三菱UFJ国際投信株式会社)

### <基準価額の騰落率> (課税前分配金再投資換算基準価額)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバル・ソブリン・オープンVA	▲0.4%	▲1.2%	▲2.2%	6.0%	42.7%	66.9%
シティ世界国債インデックス(円ベース、日本を含む)	▲0.1%	▲0.3%	0.1%	5.4%	41.8%	73.3%
差異	▲0.3%	▲0.9%	▲2.3%	0.5%	1.0%	▲6.5%

※騰落率は、年率換算していません。騰落率は月次の収益率より算出しています。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。

※「課税前分配金再投資換算基準価額」は、この投資信託の公表している基準価額に、各収益分配金(課税前)をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、委託会社が公表している基準価額とは異なります。

※ベンチマークは基準価額との関連を考慮して、前営業日の値を用いています。

※シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。

### <純資産構成比率>

債券合計	97.5%
現金+現先+その他	2.5%
合計	100.0%

### <債券組入上位10銘柄>

銘柄	ウェイト	通貨	残存年数
(1) アメリカ国債	4.6%	USDドル	4.9
(2) ベルギー国債	3.4%	ユーロ	12.5
(3) アメリカ国債	3.3%	USDドル	28.4
(4) フランス国債	2.9%	ユーロ	19.6
(5) フランス国債	2.8%	ユーロ	10.1
(6) アメリカ国債	2.7%	USDドル	1.0
(7) イギリス国債	2.4%	英ポンド	13.2
(8) ベルギー国債	2.3%	ユーロ	19.5
(9) アメリカ国債	2.2%	USDドル	3.9
(10) アメリカ国債	2.2%	USDドル	4.6

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

### <組入通貨配分比率>

通貨	ウェイト
USDドル	44.3%
ユーロ	23.4%
英ポンド	12.1%
日本円	7.4%
その他	12.8%

### <運用コメント>

<投資環境と運用状況>

債券市場では、一部の国を除き、国債利回りは低下しました。欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が、ユーロ圏の成長率およびインフレ率の見通しを引き下げたことに加え、量的金融緩和(QE)策拡大の可能性を示唆したことなどを背景に、ドイツなどの国債利回りは低下しました。また、米連邦公開市場委員会(FOMC)において政策金利の据え置きが決定されたことに続き、ノルウェー中央銀行が市場予想に反して政策金利を引下げると、世界的に緩和期待が高まったことなどから、主要国の国債利回りは低下しました。為替市場では、主要国通貨は円に対して総じて下落しました。中国では製造業購買担当者指数(PMI)が約3年半ぶりの低水準となったことを受け、投資家のリスク回避姿勢が高まり、安全資産とされる円が買われる展開となりました。また、ニュージーランド・ドルは政策金利が引下げられたことなどを背景に円に対して下落しました。当ファンドは、デューレーションについてはベンチマークに対して長めとし、国別配分については、米国や英国などをオーバーウェイトとする一方、ユーロ圏や日本などをアンダーウェイトとしています。

<今後の運用方針>

為替戦略では、経済ファンダメンタルズが相対的に良好である米国や英国への配分を重視する方針です。また、ユーロ圏は経常黒字を背景に、金融市場が不安定になる局面では相対的に通貨高となりやすいため、分散投資の観点から一定比率の保有を継続する方針です。

債券戦略では、金融緩和の長期化が見込まれるユーロ圏や日本について長期債中心の保有とすることで、ポートフォリオのインカム向上を目指す方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 海外リート型(TG)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信(REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2006年9月1日)を「100」として指数化したものです。  
 ※海外リート型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
海外リート型(TG)	▲1.77%	▲3.07%	▲9.96%	12.51%	77.93%	18.57%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.4%
投資信託	95.6%
合計	100.0%

【参考】海外リート型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## ムラ海外REITインデックス・ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ムラ海外REITインデックス ファンドVA	▲1.7%	▲2.8%	▲9.8%	14.7%	37.3%
ベンチマーク	▲1.7%	▲2.6%	▲9.5%	15.4%	46.9%

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」はスタンダード&プアーズ ファイナンシャル サービスズ エル エル シーの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関し、いかなる意思表示等を行なうものではありません。

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)はS&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、ドルベース)を委託会社において円換算したものです。

### <資産別配分比率>

資産種別	純資産比
REIT(リート)	99.3%
先物	0.6%
その他の資産	0.7%
合計(※)	-

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。  
 ※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

### <実質通貨配分>

通貨	純資産比
日本・円	0.0%
外貨計	100.0%
アメリカ・ドル	71.1%
ユーロ	7.1%
イギリス・ポンド	7.4%
その他の外貨	14.4%

※実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

### <国・地域別配分>

国・地域	純資産比
アメリカ	71.6%
オーストラリア	7.4%
イギリス	7.2%
オランダ	3.2%
シンガポール	3.0%
その他の国・地域	8.2%
合計(※)	-

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。

### <組入上位10銘柄>

	銘柄	国・地域	純資産比
1	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	5.9%
2	PUBLIC STORAGE	アメリカ	3.2%
3	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ	2.8%
4	UNIBAIL RODAMCO-NA	オランダ	2.6%
5	HEALTH CARE REIT INC	アメリカ	2.5%
6	AVALONBAY COMMUNITIES INC	アメリカ	2.4%
7	PROLOGIS INC	アメリカ	2.1%
8	VENTAS INC	アメリカ	1.9%
9	BOSTON PROPERTIES	アメリカ	1.9%
10	HCP INC	アメリカ	1.8%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

※国・地域は原則発行国・地域で区分しております。

### <市場コメント>

●7月の豪小売売上高が市場予想に反して減少したことを受けて、外国リート市場は豪州を中心に下落しました。海外金利の低下に伴う内外長期金利差が縮小したことなどを背景に、主要通貨は対円で下落(円高)しました。

(野村アセットマネジメント作成)

### <純資産総額>

純資産総額 14.0 億円

### <組入銘柄数>

組入銘柄数 314 銘柄

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。



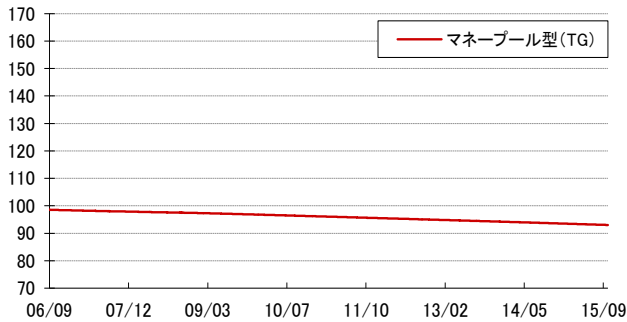
特別勘定名称

# マネープール型(TG)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
マネープール型(TG)	▲0.06%	▲0.19%	▲0.38%	▲0.76%	▲2.14%	▲6.99%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	8.6%
投資信託	91.4%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をもとに「100」として指数化したものです。

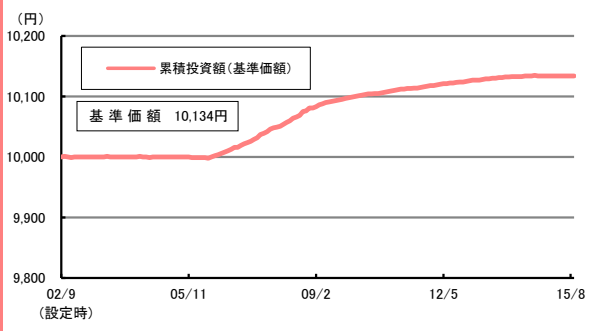
## 【参考】マネープール型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

#### 設定来の運用実績 (2015年9月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。  
 ※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。  
 ※基準価額は運用管理費用控除後のものです。  
 ※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

純資産総額 106.6 億円 (2015年9月30日現在)

#### ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース) (2015年8月31日現在)

##### <資産別組入状況>

債券	1.4%
CP	-
CD	-
現金・その他	98.6%

##### <組入資産格付内訳>

AAA/Aaa	-
AA/Aa	1.4%
A	-
現金・その他	98.6%

平均残存日数 17.68日

平均残存年数 0.05年 (対純資産総額比率)

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。「(プラス/マイナス)」の符号は省略しています。なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

商品概要	
形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

#### 累積リターン (2015年9月30日現在)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.00%	0.00%	0.00%	▲0.01%	0.11%	1.34%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込)	
第9期(2010.11.30)	0円
第10期(2011.11.30)	0円
第11期(2012.11.30)	0円
第12期(2013.12.02)	0円
第13期(2014.12.01)	0円

#### 組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2015年8月31日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	第538回 国庫短期証券 2015/09/14	債券	AA/Aa	0.9%
2	第540回 国庫短期証券 2015/09/24	債券	AA/Aa	0.5%
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-

(組入銘柄数: 2) 上位10銘柄合計 1.4% (対純資産総額比率)

\* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

## ご注意いただきたい事項

### ▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

### ▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

### ▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して <b>5.0%</b> を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して <b>(年率0.75%+運用実績に応じた費用<sup>(※)</sup>)</b> /365日を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、運用実績が <b>年率1.5%を超過した</b> 場合のみ、 <b>超過分1%あたり0.1%(上限1.25%)</b> を控除します。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、 <b>移転一回につき1,000円</b> を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の <b>1%</b> を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本株インデックス型(TG) <b>年率0.5616%程度</b>
	日本株アクティブ型(TG) <b>年率0.9504%程度</b>
	世界株式型(TG) <b>年率0.8316%程度</b>
	新興成長国株式型(TG) <b>年率1.188%程度</b>
	中国株式型(TG) <b>年率1.2096%程度</b>
	世界債券型(TG) <b>年率0.918%程度</b>
	海外リート型(TG) <b>年率0.432%程度</b>
	マネープール型(TG) <b>年率0.00918%~0.54%程度</b>

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

## その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「リズナブル」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「リズナブル」には「特別勘定グループ(TG型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(TG型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(TG型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「リズナブル」は現在販売しておりません。